

授業研究の視点を共有し、単元の構想について協議する取組

No. 3
P 4 と関連

小1 算数「かたちあそび」(全6時間)

単元の目標	立体図形についての理解の基礎となる経験や感覚を豊かにする
単元における見方・考え方	ものの形に着目し、身の回りにある物の特徴を捉えたり、形の構成について考えたりする

かたちをつくろう(1・2時間目) → とくちょうでわけよう(3・4時間目) → かたちをうつしてみよう(5・6時間目)

ころがる
・しかくい
・まる
・積み上げられる

転がる物と
転がらない
物で分けて
みよう!

積み上げられる物
とそうでない物で
分けてみよう!

空き缶やティッシュの箱の平べったいところには、丸や四角があるんだね! 他の物も調べてみたい!

1・2時間目に物に触れたりくったりする時間を十分取って、形に着目した子供の発言を可視化したことがよかったと思います。

ねらいどおり3・4時間目には、形の特徴や機能に着目した仲間分けができましたね。

単元のまとまりで、**教師の意図**や**子供の姿**、**教師の働き掛け**を構想したことで、形の特徴や機能を捉えたり、立体の面に注目したりして、立体の構成について考えることができましたね。

授業研究の視点の柱となる「資質・能力」を設定し、共有する取組

No. 2
p 2 と関連

育成する資質・能力を焦点化!

子供たちの「発信する力」を伸ばそう!

努力することができる力

自信をもって意見を伝える力

リーダーシップ

本気、全力で取り組む力

失敗を恐れない強い心

コミュニケーション力

論理的思考力

課題発見能力

批判的に考える力

想像力発想力

自分を客観的に評価する力

話す・聞く・書く・読む力

意見を検討明確化!

各教科の授業を通して育成する力

〇〇学校の子供に必要なと思う力

これからの社会を生き抜くためには・・・

子供たちの強みは・・・

この学校の特色を生かして・・・

保護者の願いは・・・

資質・能力を設定することで、同じ方向性で教育活動を進めていくことができます。

学習指導要領

子供の
実態

地域の
実情

学校教育
目標

強みや課題を共有化!

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 No. 4

～学校全体で授業改善を進めるために～

県教育センターでは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるために、リーフレットを発行しています。

No. 1



「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について、基本的な考え方を知ることができます。

No. 2



各学校で目指す資質・能力の設定から、各教科の授業実践までの道筋を学ぶことができます。

No. 3



深い学びの鍵である「見方・考え方」を働かせる授業構想で大切なことについて、知ることができます。

今回は、授業改善を学校全体で推し進めている取組について、これまでのリーフレットと関連付けて紹介します。



リーフレットは、県教育センターのWebサイトからダウンロードできます。

授業改善を進めるための取組

県内の各学校で、これまで地道に取り組み蓄積してきた実践は「主体的・対話的で深い学び」の実現に欠かせません。授業改善を学校全体で推し進めている学校では、教職員一人一人の授業改善の経験を生かし、視点を共有した取組がなされています。

授業研究の視点を共有し、一単位時間の授業について協議する取組 p2～3

授業研究の視点を共有し、単元の構想について協議する取組 p4上段

授業研究の視点の柱となる「資質・能力」を設定し、共有する取組 p4下段



多くの学校で授業研究を中心とした取組が進められています。自校の取組と照らし合わせ、学校全体で、包括的に授業改善を推し進めることができるようにすることが大切です。

県教育センターでは、研修講座に加えて、学校のニーズに合わせた出前型研修を実施しています。



子どもの学びと未来を見つめる

長崎県教育センター

Nagasaki Prefectural Education Center

令和2年4月

授業研究の視点

授業研究を

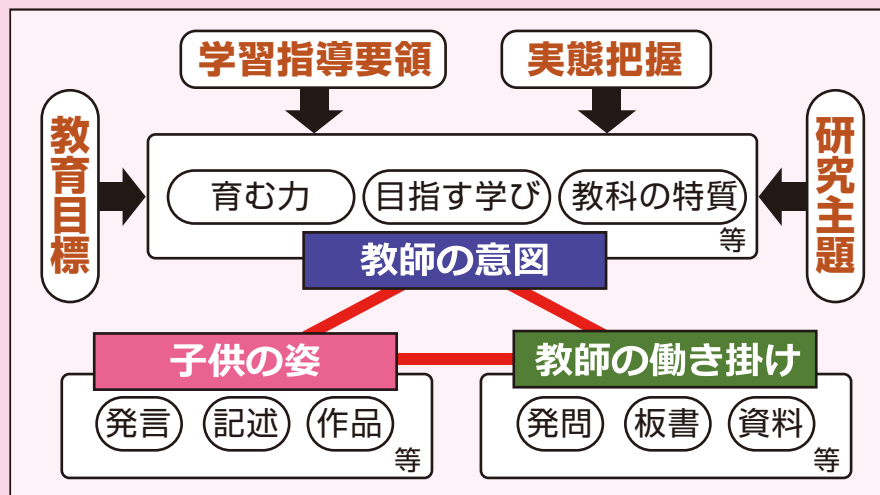
教師の意図

子供の姿

教師の働き掛け

の三つの視点から捉え直してみましょう。

No. 3
p 2～3 と関連



教師の意図

- ・どのような力を育むか。
- ・どのような学びを目指すか。
- ・学習活動は教科の特質に応じたものか。

子供の姿

- ・発言や記述、作品等を具体的に想定できているか。

教師の働き掛け

- ・発問や指示、板書、資料等を具体的に構想できているか。

※「子供の姿」は、教科の特質に応じて多様です。
(操作、創作、運動、調理、栽培、製作 等)

学習指導要領に示された

「資質・能力」
「主体的・対話的で深い学び」

教科の特質に応じた「見方・考え方」等の内容を手掛かりに、これまでの授業実践の経験を生かして教師の意図を明確にすることが大切です。

授業研究が深まる学校では、授業研究の視点が共有化されています。三つの視点を踏まえることで、授業改善を一步前に進めることができます。

授業研究の流れ

教師の意図

子供の姿

教師の働き掛け

三つの視点を関連付けたり共有したりすることで、授業研究が一貫性をもって深まり、協議が活性化します。

授業構想【指導案作成・検討】

中学校社会科：社会的事象の歴史的な見方・考え方

見方：事象相互のつながりに関わる視点 考え方：多面的・多角的に捉える

中学校社会科 歴史的分野 題材名「大航海時代の幕開け」

【本時の目標】ヨーロッパ人の世界進出を調べる活動で、ヨーロッパとアメリカのそれぞれに与えた影響や結果を読み取ることを通して、ヨーロッパ人の世界進出の結果と意義を多面的・多角的に考え説明することができる。

この時間に働かせる社会的事象の歴史的な見方・考え方

コロンブスとアメリカ先住民の關係に着目し、ヨーロッパ人の世界進出を多面的・多角的に捉える。

< 授業場面の検討（後半の初め部分） >

教師の意図

前半で3人の航海者の新大陸到達、新航路の発見などの業績をまとめ、後半でアメリカの植民地化を取り扱います。

後半の初めに、当時の絵画や航海日誌を提示して、コロンブスの先住民に対する意識に着目させます。その上で、先住民から見たヨーロッパの世界進出について捉えることができるようにしたいです。

子供の姿を視점에

前半の学びを考えると、子供たちにとって、ヨーロッパの世界進出を先住民の立場から捉えることは少し難しいかもしれませんね。

教師の働き掛けを視점에

先住民の立場から捉えられるように、段階を踏んだ資料提示と問いが必要だと思います。

研究授業【授業公開・授業参観】

< 実際の授業場面（後半の初め） >

教師の働き掛け

子供の姿

コロンブスと先住民の様子を問う。



コロンブス

この絵は、コロンブスと先住民のどんな様子を描いていますか。

先住民は、コロンブスに友好の証として贈り物を渡していると思います。

命懸けでやってきたコロンブスを、偉大な人だと尊敬し歓迎しています。

航海日誌を提示して再度問う。

< コロンブスの航海日誌 >

「彼らの全員を捕らえて送ることができる。」
「彼らをすべて服従させることができる。」
「彼らに何でも（両陛下の）お望みのことをさせることができる。」

先住民は、ヨーロッパ人に支配されるようになったと思います。

新大陸到達は、先住民の平和や自由な生活を奪うことになったと思います。

ヨーロッパ人と先住民は、どんな関係になったのでしょうか。

授業の前半と資料を結び付けて自分なりの考えをもつことができている。

新大陸到達について、これまでとは違う捉え方ができている。

子供の姿を視점에

研究協議【振り返り・改善方法の共有】

< 授業の振り返り >

子供の姿を視점에

最初は一面的だった子供たちが、先住民との関係や双方の立場など、新たな視点から考えることができていました。

教師の働き掛けを視점에

資料提示と問いのタイミングが効果的でした。

前半で新大陸到達をコロンブスの偉業としてまとめた後だったからこそ、後半では先住民の立場から深く考えることができたと思います。

教師の意図を視점에

子供たちが歴史的な見方・考え方を働かせるように、既習内容を踏まえながら段階的に絵画や日誌を提示したり問いを出したりしたことが良かったと思います。

授業研究の視点を共有して行う授業研究は、教科の壁を越えて授業改善を目指す方法としても有効です。